

鍼灸科 部

科目	解剖学各論Ⅲ			必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 <small>(単位数)</small>	64 (4)
目標	内分泌系・神経系・感覚器系について学ぶ。 全器官の理解を深める。									
内 容										
1	内分泌系	下垂体前葉の構造	17	神経系	復習					
2	〃	下垂体後葉の構造	18	〃	大脳の構造					
3	〃	松果体の構造	19	〃	脳幹の構造					
4	〃	甲状腺の構造	20	〃	間脳の構造					
5	〃	上皮小体の構造	21	〃	小脳の構造					
6	〃	副腎の構造	22	〃	脳室系					
7	〃	膵臓の内分泌構造	23	〃	脳神経の構造					
8	〃	精巣・卵巣の内分泌構造	24	〃	脊髄神経の構造					
9	〃	ホルモン分泌のメカニズム	25	〃	自律神経の構造					
10	神経系	神経系の構成	26	感覚器	目の構造					
11	〃	中枢神経の構造	27	〃	耳の構造					
12	〃	末梢神経の構成	28	〃	鼻の構造					
13	〃	脊髄の構造	29	全身の運動器	骨格の確認					
14	〃	髄膜の構造と脳脊髄液	30	〃	骨格筋の確認					
15	総括		31	総括						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学 医歯薬出版株式会社										
				担当講師	桑原 俊男					

鍼灸科 部

科目	生理学Ⅲ			必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目 標	医学は、生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問です。命の維持と健康の増進を目標としています。医療は健康維持の生じた不具合を治ることを目標とする学問です。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していきます。									
内 容										
1	運動	骨格筋の構造と機能	17	生殖	生殖器					
2	〃	運動の調節と反射	18	〃	受精と発生					
3	循環	動脈・静脈・毛細血管	19	成長と老化	個体の成長					
4	〃	肺循環・体循環・冠循環	20	〃	加齢変化と更年期障害					
5	呼吸	外呼吸・内呼吸	21	内分泌	ホルモンの種類					
6	〃	気管と気管支、肺の構造と機能	22	〃	加齢変化					
7	神経	神経細胞	23	〃	ホルモン分泌の調節と機能					
8	〃	中枢神経と末梢神経	24	内分泌器官	視床下部ホルモン					
9	消化	口腔～食道の構造と機能	25	〃	甲状腺ホルモン					
10	感覚	感覚の一般	26	〃	副腎皮質ホルモン					
11	〃	視覚・聴覚・味覚	27	血液	血液の成分と機能					
12	〃	体性感覚	28	体温	体温の調節					
13	栄養	栄養とエネルギー	29	〃	体温の産生と放散					
14	代謝	基礎代謝・物質代謝	30	排泄	腎臓の構造と機能					
15	〃	糖代謝・脂質代謝・タンパク代謝	31	〃	体液の調節と排尿反射					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	木村 健太郎				

鍼灸科 部

科目	公衆衛生学		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	衛生学の基本的な知識を身に付け、自身に対してだけではなく社会的活動にも活かせるように学習する。健康と疾病予防について理解し、ヘルスプロモーションについて高い意識を持てるようにする。									
内 容										
1	衛生学の意義	公衆衛生とは、公衆衛生の歴史								
2	健康	健康の概要、健康管理								
3	ライフスタイル・健康	食品と栄養、運動と健康								
4	環境と健康	環境とは、日常生活環境								
5	〃	環境問題								
6	産業保健	労働衛生行政、労働災害とその対策								
7	精神保健	精神障害の現状と分類								
8	母子保健	母体の健康、乳幼児の健康、少子化問題と子育て支援								
9	学校保健	学校保健とその構造、保健教育、健康管理、学校において予防すべき感染症								
10	成人・高齢者保健	成人・高齢者保健の意義、加齢と老化、生活習慣病の特徴と対策								
11	感染症	感染症の分類、発生要因、感染症予防の原則、免疫								
12	消毒法	消毒法一般、消毒の種類、医療関連感染、医療廃棄物								
13	疫学	病気の流行、疾病の頻度の測定								
14	保健統計	保健統計の意義、主要な保健統計指標								
15	総括									
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
衛生学・公衆衛生学 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	各務 順				

鍼灸科 部

科目	臨床医学各論Ⅲ			必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 教 (単位 数)	64 (4)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	クリニックで患者の診療補助にあった経験を活かして循環器疾患、血液・造血器疾患、自己免疫疾患、神経・筋疾患の概念、原因、症状について診察やサポートの方法を教育する。現代医学における種々の治療法とそれらの目的及び内容などについても学習を行う。鍼灸臨床と関連の深い疾患について取り上げて学習を行う。教科書に記載されている項目だけでなく、最新の知識を幅広く教育する。										
。											
1	循環器疾患	総論①	17	自己免疫疾患	総論①						
2	〃	総論②	18	〃	総論②						
3	〃	心不全・心弁膜症①	19	〃	関節リウマチ						
4	〃	心不全・心弁膜症②	20	〃	全身性エリテマトーデス						
5	〃	狭心症・心筋酵素億	21	〃	強皮症						
6	〃	動脈硬化症・大動脈瘤・	22	〃	ベーチェット病						
7	〃	大動脈解離	23	内分泌疾患	総論①						
8	〃	高血圧	24	〃	総論②						
9	〃	低血圧	25	〃	クッシング病・尿崩症						
10	血液・造血	総論①	26	〃	下垂体性低身長						
11	〃	総論②	27	〃	機能亢進症・低下症						
12	〃	鉄欠乏性貧血・悪性貧血	28	〃	橋本病						
13	〃	再生不良性貧血	29	〃	クッシング症候群・他						
14	〃	急性白血病	30	〃	原発性アルドステロン症						
15	〃	慢性白血病	31	総括							
16	〃	リンパ網内系疾患・出血性素	32	定期試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
臨床医学各論 医歯薬出版株式会社											
						担当講師	椎名 賢太郎				

鍼灸科 部

科目	臨床医学各論Ⅳ		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 <small>(単位数)</small>	32 (2)	
目 標	神経・筋疾患の他、鍼灸師として必要と思われる皮膚疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患婦人科疾患について学習を行う。それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習を行う。また鍼灸師として必要と考えられる麻酔学についても学習する。									
内 容										
1	神経疾患	脳血管疾患								
2	〃	感染性疾患								
3	〃	変性疾患								
4	〃	認知症								
5	〃	筋疾患								
6	〃	末梢神経疾患								
7	皮膚疾患	総論								
8	〃	皮膚炎、湿疹、円形脱毛症								
9	耳鼻科疾患	メニエール病								
10	〃	中耳炎								
11	〃	突発性難聴、副鼻腔炎								
12	眼科疾患	結膜炎、角膜炎								
13	〃	麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労								
14	一般外科	損傷御概論（熱症・寒症）								
15	〃	外科的感染症、救急処置、心肺蘇生								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学各論 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	各務 順				

鍼灸科 部

科目	医療概論	必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	施術所の経営経験を活かして現代医学の問題、保険請求制度の課題を解決する力を身に付けることを目標に教育を行う。基礎的な経緯を理解するために医療の歴史も学ぶがそれを現代の医療倫理と関連つけて鑑みる思考を身に付けることができる教育をも行う。							
内 容								
1	医学史序説							
2	医学史の意義と特質							
3	西洋医学と医療の歴史①							
4	西洋医学と医療の歴史②							
5	東洋医学と医療の歴史①							
6	東洋医学と医療の歴史②							
7	東洋医学と医療の歴史③							
8	日本の医学と医療の歴史①							
9	日本の医学と医療の歴史②							
10	日本の医学と医療の歴史③							
11	現代医学の課題							
12	現代の医療制度							
13	東洋医学の医療と歴史							
14	医療倫理							
15	施術者としての倫理							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
医療概論 医歯薬出版社								
					担当講師	椎名 賢太郎		

鍼灸科 部

科目	関係法規		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32 (2)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師、きゅう師として業務に従事する上で必要な「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律」を理解する。 ・医療従事者として理解しておくべき医療に関する法律、衛生、社会福祉に関する法律、社会保険に関わる法律、制度などを理解する。 								
内 容									
1	法とは何か	法の意義、医療過誤とリスクマネジメント							
2	〃	インフォームドコンセント							
3	あはき法	免許と試験、業務							
4	〃	学校・養成施設、指定試験・罰則							
5	関係法規	医事法規と医療制度							
6	〃	医療法							
7	〃	医師法							
8	〃	その他の医療従事者に関する法律							
9	〃	薬事法規							
10	〃	衛生関係法規（保険一般に関する法律）							
11	〃	衛生関係法規（予防衛生に関する法律）							
12	〃	衛生関係法規（環境衛生関係の法律）							
13	〃	社会福祉関係法規							
14	〃	社会保険関係法規							
15	総括								
16	定期試験								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
関係法規 医歯薬出版社									
						担当講師	各務 順		

鍼灸科 部

科目	経絡経穴特論	必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	32 (2)
目 標	経絡の流注・奇経八脈との関連、経穴の名称・部位・作用、要穴の特性・部位などについて学ぶ							
内 容								
1	督脈							
2	任脈							
3	手の太陰肺経							
4	手の陽明大腸経							
5	足の陽明胃経							
6	足の太陰脾経							
7	手の少陰心経							
8	手の太陽小腸経							
9	足の太陽膀胱経							
10	足の少陰腎経							
11	手の厥陰心包経							
12	手の少陽三焦経							
13	足の少陽胆経							
14	足の厥陰肝経							
15	奇経八脈							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
経絡経穴概論 医道の日本社 配布資料								
					担当講師	今井 佳江		

鍼灸科 部

科目	分野別はりきゅう実技	必修	履修 学年	3	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	32 (1)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	整形外科での勤務経験を活かして、施術所のみならず医療機関と鍼灸施術所が連携して患者の診療をすすめていくこと、またその診療情報提供書の記載方法についても徒手検査、鍼灸施術分野での客観的方法を教育していく。							
内 容								
1	頸部の症状に対する刺鍼と施灸							
2	肩部の症状に対する刺鍼と施灸							
3	肘部の症状に対する刺鍼と施灸							
4	手部の症状に対する刺鍼と施灸							
5	背部の症状に対する刺鍼と施灸							
6	腰部の症状に対する刺鍼と施灸							
7	股部の症状に対する刺鍼と施灸							
8	膝部の症状に対する刺鍼と施灸							
9	足部の症状に対する刺鍼と施灸							
10	肝の症状に対する刺鍼と施灸							
11	心の症状に対する刺鍼と施灸							
12	脾の症状に対する刺鍼と施灸							
13	肺の症状に対する刺鍼と施灸							
14	腎の症状に対する刺鍼と施灸							
15	総括							
16	効果判定試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
						担当講師	荻野 修平	

鍼灸科 部

科目	はりきゅう実技臨床 I			必修	履修 学年	3	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	鍼灸整骨院での勤務経験を活かして来院患者の各運動器疾患の原因となっている筋に対して、体表から筋肉を触察し、目的の筋に正しく刺鍼ができるよう技術を教育していく。									
内 容										
1	骨の触察	肩甲骨、鎖骨の触察	17	筋の触察	大腿筋膜張筋、縫工筋					
2	筋の触察	胸鎖乳突筋、斜角筋群	18	〃	大腿四頭筋					
3	〃	僧帽筋	19	〃	ハムストリングス					
4	〃	棘上筋、棘下筋、小円筋	20	〃	薄筋、長・大内転筋					
5	〃	大円筋、広背筋	21	〃	大腿部の復習					
6	〃	前鋸筋の確認、肩甲下筋	22	〃	前脛骨筋、長趾伸筋					
7	〃	三角筋	23	〃	腓骨筋群					
8	〃	上腕三頭筋	24	〃	下腿三頭筋					
9	〃	上腕筋、上腕二頭筋	25	〃	下腿の復習					
10	〃	上腕部の復習	26	〃	脊柱起立筋群					
11	〃	腕橈骨筋、長・短橈側手根伸筋	27	〃	腰方形筋					
12	〃	指伸筋、尺側手根伸筋、肘筋	28	〃	全身の復習①					
13	〃	円回内筋、橈側手根屈筋、	29	〃	全身の復習②					
14	〃	長掌筋、尺側手根屈筋	30	〃	全身の復習③					
15	総括		31	総括						
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
						担当講師	増田 知行			

鍼灸科 部

科目	はりきゅう実技臨床Ⅱ			必修	履修 学年	3	授業の 方法	実習	時間 数 (単位数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	鍼灸整骨院での勤務経験を活かして医療面接の方法を実際の即したロールプレイング方式で実践教育をしていく。									
内 容										
1	医療面接	医療面接の意義	17	医療面接から治療	腰痛の医療面接					
2	〃	医療面接の方法・技術	18	〃	腰痛の治療					
3	〃	患者を想定してのロールプレ	19	〃	腰痛の評価					
4	カルテ	カルテの意義	20	〃	膝関節痛の医療面接					
5	〃	カルテの書き方	21	〃	膝関節痛の治療					
6	〃	カルテ記載の実際	22	〃	膝関節痛の評価					
7	医療面接から治療	頸部痛の医療面接	23	臨床の実際	症例検討①					
8	〃	頸部痛の治療	24	〃	症例検討②					
9	〃	頸部痛の評価	25	〃	症例検討③					
10	〃	胸郭出口症候群の医療面接	26	〃	症例検討④					
11	〃	胸郭出口症候群の治療	27	〃	症例検討⑤					
12	〃	胸郭出口症候群の評価	28	〃	症例検討⑥					
13	〃	肩関節の医療面接	29	〃	症例検討⑦					
14	〃	肩関節の治療	30	〃	症例検討⑧					
15	〃	肩関節の評価	31	総括						
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
					担当講師	増田 知行				

鍼灸科 部

科目	臨床実習	必修	履修 学年	3	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	92 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	クリニックリハビリテーション部、また鍼灸・柔道整復所での臨床経験を活かして外部から患者を募集し臨床を経験する。関係法規的な施術の守備範囲を遵守することや再現性の高い臨床を教育する。								
内 容									
1	医療面接と施術	24	ケーススタディと施術						
2	理学検査（知覚検査）と施術	25	ケーススタディと施術						
3	理学検査（徒手検査）と施術	26	ケーススタディと施術						
4	カルテの記入方法①（西洋医学）と施術	27	症例検討と施術						
5	カルテの記入方法②（東洋医学）と施術	28	ケーススタディと施術						
6	ケーススタディと施術	29	ケーススタディと施術						
7	ケーススタディと施術	30	ケーススタディと施術						
8	ケーススタディと施術	31	ケーススタディと施術						
9	ケーススタディと施術	32	ケーススタディと施術						
10	ケーススタディと施術	33	ケーススタディと施術						
11	ケーススタディと施術	34	症例検討と施術						
12	ケーススタディと施術	35	ケーススタディと施術						
13	症例検討と施術	36	ケーススタディと施術						
14	症例検討と施術	37	ケーススタディと施術						
15	外来患者に対しての施術	38	ケーススタディと施術						
16	外来患者に対しての施術	39	外来患者に対しての施術						
17	外来患者に対しての施術	40	外来患者に対しての施術						
18	外来患者に対しての施術	41	外来患者に対してのと施術						
19	治療に対するフィードバックと施術	42	外来患者に対しての施術						
20	治療に対するフィードバックと施術	43	外来患者に対しての施術						
21	ケーススタディと施術	44	治療に対するフィードバックと施術						
22	ケーススタディと施術	45	症例報告会と施術						
23	ケーススタディと施術	46	外来患者に対しての施術と評価						
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
						担当講師	椎名 賢太郎		

鍼灸科 部

科目	臨床実習 (施術所における臨床実習前施術実技試験)		必修	履修 学年	3	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	92 (2)
目 標	学習したことを基礎として、外来患者への施術を行う。 外来患者への施術を通して、臨床技術だけでなく、医療従事者としての心構えや患者様への対応なども身に付ける。 「医療従事者には何が必要か」と、常に自分へ目標や課題を設けて実習に取り組む。								
内 容									
1	実習前確認試験 (医療面接)	24	ケーススタディと施術						
2	実習前確認試験 (理学検査法①)	25	ケーススタディと施術						
3	実習前確認試験 (理学検査法②)	26	ケーススタディと施術						
4	実習前確認試験 (病態把握)	27	症例検討と施術						
5	実習前確認試験 (四診)	28	ケーススタディと施術						
6	実習前確認試験 (弁証論治)	29	ケーススタディと施術						
7	ケーススタディと施術	30	ケーススタディと施術						
8	ケーススタディと施術	31	症例検討と施術						
9	ケーススタディと施術	32	ケーススタディと施術						
10	ケーススタディと施術	33	ケーススタディと施術						
11	ケーススタディと施術	34	ケーススタディと施術						
12	ケーススタディと施術	35	症例検討と施術						
13	ケーススタディと施術	36	ケーススタディと施術						
14	症例検討と施術	37	ケーススタディと施術						
15	症例検討と施術	38	ケーススタディと施術						
16	症例検討と施術	39	症例検討と施術						
17	外来患者に対しての施術	40	外来患者に対しての施術						
18	外来患者に対しての施術	41	外来患者に対してのと施術						
19	治療に対するフィードバックと施術	42	治療に対するフィードバックと施術						
20	外来患者に対しての施術	43	外来患者に対しての施術						
21	外来患者に対しての施術	44	外来患者に対しての施術						
22	外来患者に対しての施術	45	治療に対するフィードバックと施術						
23	外来患者に対しての施術と評価	46	外来患者に対しての施術と評価						
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
						担当講師	内田 舜		

鍼灸科 部

科目	分野別経絡経穴論		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 4 経脈の流注と経穴を覚え、臨床に応用する。 ・ 経脈の病証を覚える。 ・ 要穴を覚え臨床に応用する。 ・ 筋肉上の経穴を覚え臨床に役立てる。 								
内 容									
1	流注と経穴	手の太陰肺経							
2	〃	手の陽明大腸経							
3	〃	足の陽明胃経							
4	〃	足の太陰脾経							
5	〃	手の少陰心経							
6	〃	手の太陽小腸経							
7	〃	足の太陽膀胱経							
8	〃	足の少陰腎経							
9	〃	手の厥陰心包経							
10	〃	手の少陽三焦経							
11	〃	足の少陽胆経							
12	〃	足の厥陰肝経							
13	〃	督脈・任脈							
14	骨度法	骨度法							
15	要穴の概略	五俞穴・五要穴・四総穴・八会穴・下合穴							
16	定期試験								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
<p>経絡経穴概論 医道の日本社</p>									
						担当講師	各務 順		

鍼灸科 部

科目	東洋医学概論応用		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	中華思想を理解し、患者の訴える症状のみならず、主訴につながったであろう根本的な原因を探り出し、治療で来るよう、問診、触診等の情報から患者の身体状態を総合的に判断できるようになる。								
内 容									
1	東洋医学の特徴	東洋医学の成り立ち・古代九鍼							
2	生理と病理	気血津液、神の概念							
3	〃	蔵象							
4	〃	経絡							
5	〃	病因病機							
6	東洋医学の思想	陰陽論、五行論							
7	〃	五行色体							
8	四診	望診、聞診							
9	〃	問診、切診							
10	弁証	八綱、気血津液、臟腑							
11	〃	経絡、六淫、六経							
12	論治	治療法の概要							
13	〃	治則、治法							
14	弁証の進め方	弁証の手順							
15	総括								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
東洋医学概論 医道の日本社									
						担当講師	今井 佳江		

鍼灸科 部

科目	実践臨床医学各論 I		必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	整形外科での勤務経験から、鍼灸院に来所することはあるが守備範囲を超えていて医療期間に紹介すべき患者、疾患をその各診察方法を以て教育していく。								
内 容									
1	感染症疾患	細菌感染・ウイルス感染							
2	神経・筋疾患	脳、脊髄、ニューロン、機能性							
3	呼吸器疾患	感染性・閉塞性・びまん性肺疾患							
4	循環器疾患	心臓、動脈、血圧							
5	消化器疾患	口腔、食道、肝臓、膵臓、胆嚢、小腸、大腸							
6	泌尿器疾患	糸球体疾患、腎不全、							
7	生殖器疾患	前立腺疾患、女性生殖器疾患							
8	造血器疾患	リンパ網内系疾患							
9	代謝と栄養	糖代謝・脂質異常							
10	自己免疫疾患	膠原病							
11	運動器疾患	後縦靭帯骨化症、分離症、すべり症							
12	〃	頸部、腰部変形性脊椎症							
13	〃	頸部、腰部変形性狭窄症							
14	皮膚疾患	感染症、創、アトピー							
15	精神、心身医学	統合失調症、摂食障害、他							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
臨床医学各論 医歯薬出版社									
						担当講師	荻野 修平		

鍼灸科 部

科目	実践臨床医学各論Ⅱ	必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	医療機関での勤務経験を活かし診療科目の垣根を超えた柔軟な目線で患者の症状を見極めることを目標に各疾患についてその患者の外側から得られる情報をもとに見極める力を教育で養っていく。							
内 容								
1	総論 猩紅熱 百日咳 ジフテリア							
2	麻疹 風疹 流行性耳下腺炎							
3	梅毒 淋病 性器クラミジア							
4	演習問題 (感染症)							
5	演習問題 (神経・筋疾患)							
6	演習問題 (呼吸器疾患)							
7	演習問題 (循環器疾患)							
8	演習問題 (消化器疾患)							
9	演習問題 (泌尿・生殖器疾患)							
10	演習問題 (血液・造血疾患)							
11	演習問題 (代謝・栄養疾患)							
12	演習問題 (内分泌疾患)							
13	演習問題 (運動器疾患)							
14	演習問題 (皮膚・頭頸部疾患)							
15	演習問題 (精神・心身医学的疾患)							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
臨床医学各論 医歯薬出版社								
					担当講師	椎名 賢太郎		

鍼灸科 部

科目	実践臨床医学総論			必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32 (2)
目 標	二年生で学習した臨床医学総論を発展させ、現代医学的な診察方法・診断方法など様々な臨床現場で応用できる実践力を養う。 疾患時に起こる徴候、身体の変化などの仕組みを理解することが出来る。									
内 容										
1	診察の方法	医療面接								
2	〃	診察方法（視診・触診・打診・聴診）								
3	〃	身体の測定								
4	神経系の診察	反射・脳神経・髄膜刺激症状								
5	バイタルサイン	体温・脈拍・血圧・呼吸								
6	全身の診察	顔貌・精神状態								
7	〃	体格・体型								
8	〃	体形・栄養状態								
9	〃	姿勢・体位・歩行								
10	〃	皮膚・粘膜・爪・リンパ節								
11	〃	感覚器・頸部・胸部								
12	〃	心臓・腹部・背部								
13	運動機能検査	運動麻痺								
14	〃	不随意運動								
15	〃	関節可動域検査								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学総論 医歯薬出版社										
					担当講師	各務 順				

鍼灸科 部

科目	実践経営学			必修	履修 学年	3	授業の 方法	講義	時間 数 <small>(単位数)</small>	32 (2)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・施術所開設に必要な法律を学ぶ。 ・開設前にすること（資金調達、開設場所、リスク管理対策等）を学ぶ。 ・開業後にすること（行政手続き、記録管理等）を学ぶ。 									
内 容										
1	関係法規	施設設備								
2	〃	消毒設備								
3	業務形態の決定	資金								
4	〃	資金の使途								
5	広報・宣伝	看板の掲示								
6	〃	新聞の利用								
7	〃	広告								
8	〃	その他								
9	リスク管理	危機管理の必要性								
10	行政手続き	業務開始日								
11	〃	個人事業の開廃業等手届出手続き								
12	〃	青色申告承認申請手続き								
13	財務・記録管理	診療記録簿（カルテ）								
14	〃	日報								
15	自賠責保険									
16	評価									
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
配布資料										
					担当講師	松丸 啓司				